

PEEPER CARD

ピーパーカード

対象年齢：7歳以上
 プレイ人数：2～6人
 プレイ時間：1ゲーム / 3～5分

PEEPER は、場に出ているカードよりも強いカードを出していき、自分の手札を一番早く無くして上がることを目指します。

大富豪に似た簡単なルールですが、特殊な役によって大人も子供も熱中できるスピーディーで一発逆転も起きるエキサイティングなカードゲームです。

【内容物】

- 1～15のカード（各数字4枚ずつ 合計60枚）
- Xカード（4枚）
- ※得点を計算するためのペンと紙、もしくは点棒やチップが必要です。

【ゲームの準備】

3人、5人、6人でプレイする場合は「15」のカード4枚を取り除き、箱の中に戻してください。

残りのカードをよく切り、プレイヤーに裏向きで全部のカードを配ります。

2人 32枚	3人 20枚
4人 16枚	5人 12枚
6人 10枚	

まず、赤で「1 (START)」と書かれたカードを持っているプレイヤーが最初のラウンドの「親」になりカードを「場」に出します。（「1 (START)」カードを最初に出す必要はありません）



【ゲームの進め方】

ゲームは何回かのディーラーで構成されます。

ディーラーは何回かのラウンドで構成され、誰かが全ての手札を出し切るとディーラー終了で得点計算をし、次のディーラーとなります。

ラウンドでは、時計回りに順番に各プレイヤーに手番が移っていきます。

自分の手番では

- ルールに従って手札から「場」にカードを出す
- パスをする

のいずれかを行います。

まず、そのラウンドの「親」は手札から後述するいずれかの「役」のカードを「場」に出します。「親」はここでパスをしてもかまいませんが、その場合は「親」の左隣のプレイヤーが新たな「親」となります。

次の手番プレイヤー（左隣のプレイヤー）は、現在「場」に出されている「役」と同じ「役」でより強い組み合わせのカードを出さなければなりません。

より強いカードを出せない場合、もしくは出したくない場合は「パス」をします。

「パス」をすると左隣のプレイヤーに手番が移ります。一度「パス」をしても、再び自分に手番が回ってきたときには、手札から「場」にカードを出すか、「パス」するかを決めることができます。

他のプレイヤーが「より強い役」を「場」に出した場合、自分が出した「役」のカードを裏返し、場の中央に集めて捨て札としてください。

カードを「場」に出したプレイヤーの左隣から順に、全てのプレイヤーが「パス」した場合、ラウンドが終了します。場のカードを裏向きにして捨て札にします。

最後に「場」にカードを出したプレイヤーが次のラウンドの「親」になり、好きな「役」のカードを「場」に出すことができます。

このように繰り返しラウンドを行い、いずれかのプレイヤーが手札全てを出し終えた（上がった）瞬間にそのディーラーは終了します。



1つにつきマイナス5点

上がれなかったプレイヤーは手札に残ったカードに書かれた失点マーク（マーク1つにつき、マイナス5点）を数え、その数をメモします。

失点の計算が終わったら、全てのカードを裏向きにしてよくシャッフルし、カードを配り直して次のディーラーを開始します。

【ゲームの終了】

プレイしている人数と同じ回数のディーラーを行い、失点の一番少ない人の勝利です。

◇オプションルール

- 誰かの失点が100点に到達したらゲーム終了とし、その時点で失点の一番少ない人の勝利とします。
- そのラウンドを上がったプレイヤーは、全プレイヤーの残り手札の失点マークの数の総数を得点として獲得します。プレイしている人数と同じ回数のディーラーを行い、得点の一番大きい人の勝ちです。

【「役」の種類】

手札から出せる「役」は、自分の手番の時にだけ出せる「役」と手番に関係なく出せる「役」の2種類に大別されます。

●自分の手番の時にだけ出せる「役」

シングル、ペア、ストレート、ペアストレート、ボム、ボム2

●手番に関係なく出せる「役」（ただし条件あり）

マイン、リターン

●自分の手番の時にだけ出せる「役」

シングル、ペア、ストレート、ペアストレートは、自分が親になってラウンドを開始するとき、もしくは自分の手番で、場に出されている「役」と同じ役を場に出すことができます。

シングル

カード1枚だけ「場」に出します。既に「場」に出ている数字よりも大きい数字のカードしか出せません。

ペア

同じ数字のカード2枚組を「場」に出します。既に「場」に出ている数字よりも大きい数字のカードしか出せません。

（ペアの例）



ストレート

連続する数字のカード3枚以上を組にして「場」に出します。ただし、枚数の異なるストレートは違う「組」と見なし、出すことはできません。

ストレートの優劣はその組の中の最も大きい数字によって決まります。(5,6,7の組よりも6,7,8の組の方が強い)

(ストレートの例)



ペアストレート

連続する3つ以上の数字のカード2枚ずつ6枚以上の組を「場」に出します。ただし、枚数の異なるペアストレートは違う「組」と見なし、出すことはできません。

ペアストレートの優劣はその組の中の最も大きい数字によって決まります。(5,5,6,6,7,7の組よりも6,6,7,7,8,8の組の方が強い)

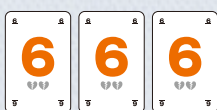
(ペアストレートの例)



ボム

同じ数字のカード3枚を「場」に出します。ボムは場に出ている「役」がシングル、ペア、ストレート、ペアストレートのいずれの場合でも、自分の手番で「場」に出すことができます。他のプレイヤーによってボムが「場」に出されている場合、より大きい数字でのボム、もしくはボム2(後述)しか「場」に出せません。

(ボムの例)



ボム2

同じ数字のカード4枚を「場」に出します。ボム2は場に出ている「役」がシングル、ペア、ストレート、ペアストレート、ボムのいずれの場合でも、自分の手番で「場」に出すことができます。

他のプレイヤーによってボム2が「場」に出されている場合、より大きい数字のボム2しか「場」に出せません。

(ボム2の例)



Xカードについて

Xカードは、普通は最も大きい数字として扱います。ペア、ストレート、ペアストレートでは、ワイルドカード(任意の数字のカード)として扱うことができます。ただし、ボムやボム2ではXカードをワイルドカードとして扱うことはできません(8,8,Xでボムとすることはできない)。

Xカードのみでのボム(Xカード3枚でのボム)、ボム2(Xカード4枚でのボム2)は出すことができます。

Xカードによるシングル、ボム、ボム2はどの数字よりも強い

(ペアの例)



(ストレートの例)



(ペアストレートの例)



(認められない例)



※Xカードは同時に複数枚使用することも出来ます。

※ボム・ボム2ではXカードをワイルドカードとして扱えません。

いと見なされます。

●自分の手番でなくても「場」に出せる「役」

条件さえそろえば、自分の手番でなくても「場」に出せる「役」があります。

マイン

誰かがシングルのカードを出した時、そのカードと同じ数字のカードが手札に2枚あれば「マイン!」と宣言し、その2枚のカードを「場」に出せます。

「マイン!」で出されたカードに対して「リターン!」(後述)が宣言されない場合、このラウンドは終了し、「マイン」を出したプレイヤーがこのラウンドの勝者として、次ラウンドの

(マインの例)



プレイヤーA

プレイヤーC

※自分の手番でなくても構いません。

「親」になります。

リターン

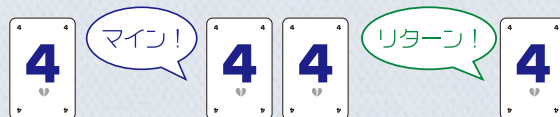
誰かが「マイン」宣言をした直後、自分の手札にマイン宣言されたその数字のカードがあれば、手番に関係なく「リターン!」と宣言し、そのカードを「場」に出します。

「リターン」が宣言された瞬間に、このラウンドは終了し「リターン」をしたプレイヤーがこのラウンドの勝者として、次のラウンドの「親」になります。

マイン、リターンではXカードをワイルドカードとして使用することはできません。

Xカードがシングルで出された場合のXカード2枚による「マイン」や、そのマインに対するXカード1枚による「リターン」は可能です。

(リターンの例)



プレイヤーA

プレイヤーC

プレイヤーB

※自分の手番でなくても構いません。

※自分の手番でなくても構いません。

このたびは PEEPER CARD をお買上げ頂き有難うございました。製品に関するお問い合わせは【ボードゲームサークル まんまる】のホームページまでお願いします。

ボードゲームサークル まんまる ホームページ

<http://www.manmaru.tokyo.jp/>



制作: まんまる

ゲームデザイン: Hyo-Jong You

(c)2005, JOEN Co., Ltd. All rights reserved.